

ご家族とともに実践する小児医療へ

院長 中村 肇



分の目でわが子の成長の過程を確かめることが、その後の親子関係の形成に欠かせないものです。親の胸に抱かれた子どもの顔は、緊張感から開放され、本当に安心した顔つきになっています。

私たち医療スタッフ、とりわけナースの役割は、親と一緒に過ごすことのできない空白の時間の病状だけでなく、子どもたちの生活振り、成長の記録をご両親に伝えるよう努めています。親が見る病室での子どもの様子には、医療者の目から見るのとは別の子ども顔があります。親一人ひとりによって、子どもの見かた、接し方が違います。親の観察を小児医療を実践していく上での重要な情報として、子ども一人ひとりへの接し方について工夫をしていきたいものです。

子どもたちにとって、素晴らしい年になりますように。



新年おめでとうございます。新しい年への大きな希望に胸を膨らませ、春を迎えられたことと存じます。

少子化とも相まって、親の育児への不安感が増す一方です。増してや、病気をもつ親の不安は計り知れないものがあります。長期にわたる親子分離は、親子関係を希薄なものにします。とりわけ、人生の出発点での母子の分離が大きな問題となっています。母子の触れ合いを少しでも増やすことが、ともすれば希薄になりがちな現代の親子関係をより緊密なものにしてくれると確信し、本院周産期医療センターでも、昨年5月からようやく母子同室制を導入しています。

本院の一般病棟においては、これまで面会時間を設定し、お子さんだけをお預かりする体制をとっていましたが、親子関係を重視するために、親子で一緒に病室で過ごせる時間をできるだけ増やすようにしました。お子様の状態やご家族の希望によっては、夜間帯も一緒に過ごしていただけるようにしています。本来なら、フリーの面会としたいところですが、すべてのご家族が子どもと一緒に夜間も過ごしていただくには、病室があまりにも狭すぎてご不便をおかけすることになるため実現していないのが実情です。

元気な乳幼児でも一日、一日変化しています。闘病中の子どもたちの毎日の変化は、病気の変化だけでなく、成長の変化も加わります。親自身が自

Merry Christmas

12月21日(水) サンタさんが病室を訪問してくれました。ちょっと早めのサンタさんからのプレゼントをもらって子どもさん達も大喜びでした。



小阪先生の
サンタさん!



Christmas Concert

12月8日(木)

クリスマス会で一緒にうたったよ~



インフルエンザについて

院内感染対策委員 小坂 嘉之

今年も寒くなっていよいよインフルエンザの季節到来です。

インフルエンザについてよくある質問をQ&A方式でまとめました。

また当院のインフルエンザに対する取り組みについて御紹介させていただきます。

Q：インフルエンザと普通の風邪（かぜ）の違いは何ですか？

A：普通のかぜは局所（のどの痛み、咳、鼻水など）の症状が中心で全身症状はあまり見られませんし、発熱もあまり高くない場合が多く重症化することはあまりありません。しかしインフルエンザでは通常38℃をこえる発熱に加えて関節痛、筋肉痛といった全身症状が見られます。

Q：インフルエンザの合併症は？

A：気管支炎、肺炎、中耳炎などがあげられます。小児、高齢者や基礎疾患のある人は重症化することが多く特に注意が必要です。

また小児ではまれに急性脳症（脳炎）を起こすことがあります。

Q：インフルエンザにかからないためには？

A：基本は流行前にワクチンを受けることです。しかしワクチンをうてば絶対にかからないで済む訳ではありません。それと終生免疫では無いので、原則的に毎年注射する必要があります。インフルエンザが流行してきたら、不要な人込みへの外出は控えましょう。

Q：インフルエンザにかかった（かもしれないと思ったら）ら？

A：早めに医療機関を受診しましょう。今は迅速キットがあり、短時間でインフルエンザかどうか診断できます。そのうえで、抗インフルエンザ薬が処方されますので、指示に従って服用して下さい。安静、休養が大事なのは他の人にうつさないという点からも言うまでもありません。

Q：こども病院でのインフルエンザの取り組みについて教えてください。

A：まず我々職員がうつす側になってはいけませんので、基本的には全職員がワクチンを接種するようにしています。また流行期になると体調の悪い方は入院患者様の面会をお断りしています。これは面会の方から病棟内にウイルスが持ち込まれる可能性があるからです。ただし基礎疾患のある患者様や脳炎などの重症合併症のある方は当然入院治療が必要となってきますので、その場合は個室管理をすとか、あるいは同じインフルエンザの方同士で同室に入院していただくようにしています。

インフルエンザに関して御質問がある方は担当医までお願いします。

「よっ日本ー!!」

保育士 坂東 泰江

「よ〜っ、日本ー!!」で最初に登場してきたのは、おさるのウッキーとにわたりのコケコ。この2人の司会で10月5日に第2回かくし芸大会「よっ日本ー!!」が始まりました。前回に引き続きお琴と手品、さらに新しくフルート演奏とハンドベルが披露されました。

今回は、楽器演奏がたくさんあり、子どもたちも静かに、楽しみながら鑑賞していました。普段あまり接することのない心落ち着くお琴や、陽気で楽しいフルート、5人の素晴らしいコンビネーションで奏でたハンドベルにくぎづけになりました。水を入れても出てこない新聞紙やハンカチを使った手品にも会場中が驚き、拍手喝采でした。

また、会場に集まった子どもたちとご家族の中から出演者を募り、折り紙競争や、お絵かきコンテストを行いました。折り紙競争では、大人4名でコップを折りました。

一番たくさん折れた人は、90秒の制限時間内に10個も折れ、会場にいるお客さんを驚かせました。

お絵かきコンテストではお題が出され、紙に書かれた丸に付け足して絵を完成させるというものでした。出来上がった作品の中で多かったものは、みんなの大好きなアンパンマンでした。お絵かきコンテストの出場者には、おちゃめで賞・すてきで賞などの賞が贈られました。今回で2回目という始めて間もないかくし芸大会。今後もさらに楽しい内容で、子どもたちとご家族に楽しんで頂けるように盛り上げていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。



Infec-tion
Control
Com-mit-tee
院内感染対策委員会

Let's play!
Let's smile!
お楽しみ会

姉妹提携と今後の活動の提案

連 利 博



20数年前、シアトル小児病院と兵庫県立こども病院は姉妹関係にありました（詳細は「げんきカエル」第9号参照）。当時は医師が中心の活動であったようですが、そのままたち切れになっていたようで、今日その痕跡はあまり感じられないのが残念です。私は、今回米国小児科学会外科部門に出席した帰路に中村院長の手紙を携えてシアトル小児病院を訪問しました。目的は姉妹提携の再開です。先方は大変乗り気で実現できそうなので、シアトル小児病院の様子を報告するとともに、今後の交流について私見を述べさせていただきます。

2005年10月11日、シアトル小児病院を訪問しました。院長不在のためRobert Sawin小児外科部長と面談し、病院を案内していただきました。まず、今回渡米する前にシアトル小児病院でこれまでの姉妹提携の活動記録が残っていないかを調べてもらっていたのですが、残念ながら資料は残っていませんでした。

交流はお互いに学べるのが理想で、シアトルの人たちが日本から何を学べるかに話が及んだとき、今アメリカでThe Toyota Way, 14 Management principles from the World's Greatest Manufacturer, (Jeffrey K. Liker, トヨタの会社運営の本で日経BP社から訳本が出ています)が流行本で、いかにトヨタ流に病院運営を合理化するかを考えているところだそうです。これも一つの日本から学べることだと嬉しいコメントをいただきました。その後の一般病棟や手術室、ICU、NICUの見学では、建物自体は子ども達のために魅力的になるようあちらこちらにアートを施しエレベーターにも動物の名前がつけられており、楽しい時間を過ごしました。また、クリニックラウンジともすれ違い、クラウンは小児病棟の日常的な存在でした。院内栄養管理チームの存在や回診に栄養士も参加すること、コンピューター付のケース戸棚による在庫管理、

手術室ナースの勤務体制などシアトル小児病院の運営上の工夫を幾つか挙げられました。

これだけ地球が小さくなり人がたやすく世界中を往来できるようになった今日、姉妹提携は実際的な知識や情報の交換をより充実させるのではないのでしょうか。例えば、欧米では入院する子どもの権利憲章というのがありますが、それがどのように実践されているのかなど、学問的なことより患者の目線での医療提供の工夫を各部門の様々な観点で学ぶことができるでしょう。兵庫県とワシントン州は姉妹県で、神戸市とシアトル市も姉妹都

市の関係です。シアトルにはIchiroもいるし、スターバックス発祥の地で、ワインもなかなかで、特にメルローはいけました。

訪問はいろんなパターンで企画できそうです。通訳つきで2、3日院内の現場で過ごすというのはどうでしょうか？テーマを決めて参加者で話し合う時間をもってもいいかもしれません。10名以上集まると団体ツアーが組めるので旅費12、3万円（航空運賃と宿泊代）で可能だそうです。一方、必ずしも団体行動をとる必要はなく、例えば、1週間の個人旅行の中で日程を決めておいてシアトル小児病院に集合するというのも可能でしょう。その他、考えられる交流方法や期待されるプログラムなど奮ってご意見下さい。



●ICU回診



●くじら入口

興味をもたれた方、参加希望される方を募りますので、私のメールまでご一報ください。

muraji_kch@hp.pref.hyogo.jp

追記：案内して下さった小児外科のDr.Sawinが早速5月に来神されるそうです。

シアトル小児病院の沿革

シアトル小児病院は1907年にAnna Cliseと23人の女性でクリニックとして創設されました。1911年には40床の病院となり、1953年に現在の場所に移転し、1976年現在の病棟が建設され、現在208床と50もの外来クリニックが増設されました。1989年には救急病棟と研究施設、特別外来棟も増築され、1993年には救急棟の横にヘリコプター発着場が準備されました。1996年には心臓病専門の内科外科、麻酔科と重症管理棟が完成しスタッフが整えられ、日帰り棟も同年に完成しています。

What's
new
in the hospitals?
診療科とクリニック

ちびっこ魔法使いに襲われる?!

栄養指導課長 下浦 佳之



大事件は去る10月31日に起こりました。突然栄養指導課へちびっこの魔法使いたちが現れ「Trick or treat! (おかしをくれなきゃ、いたずらしちゃうぞ!)」と大きな声で叫びながら、栄養指導課職員に集団で襲い?かかりました。

いたずらされると困るので、ちびっこ魔法使いの持っているかぼちゃのランタンにお菓子を入れると「ありがとう」と元気いっばいの笑顔で返事があり、闇の中へ消えていきました。

もう、おわかりのことと思いますがHALLOWEEN (ハロウィン) の日の出来事です。ハロウィンでは仮装したこども達が家々を回ってお菓子を貰ったり、カボチャのランタン「ジャック・オ・ランタン」を作ります。人々は悪霊を追い払うために、このランタンを作るようになったといわれています。

子供達の「Trick or treat!」の元気な声が病院内に響き渡り「病魔」が追い払われたことでしょう。



お仕事紹介 その5

ソーシャルワーカーのお仕事

指導相談・地域医療連携部
ソーシャルワーカー 長岡 美佐

ソーシャルワーカーとは、病気や障がいによって生じてくる生活上の不安、経済的なこと、入院生活や退院後の生活に関する心配事、育児支援など、入院・通院することにより生じてくる様々なご相談に応じる職種です。

具体的にどんな内容の相談が多いかというと

- ◆療育施設へ通いたい
- ◆病気の子どもでも預かってくれる所を探して欲しい
- ◆障害者手帳、手当、医療費助成制度などの福祉サービスについて知りたい
- ◆ショートステイやホームヘルパーを活用したい
- ◆子どもの発達に不安があるなどです。また、地域での在宅生活を支援してもらえるように地域の保健師さんや児童相談所、役所の相談員さんにご家族を紹介し

たり、私が病院の窓口となって地域の各機関と連携をしたりしています。

困っていることというのは、なかなか自分でも気づきにくかったり、整理したりしにくいものです。お子さまやご家族が主体的に生活できることを目標に、何か活用できるものがないか、少しでも充実した生活を過ごすことができるよう、一緒に考えていければと考えています。

気になること、知りたいことなどございましたら、指導相談部までおこしください。主治医の先生や看護師さんに伝えていただいてもよいと思います。お気軽に、指導相談部ソーシャルワーカーまでご相談ください。



血液腫瘍科病棟における 服薬指導

薬剤部では、安全で適正な薬物療法を提供するために産科・循環器科・心臓血管外科・血液腫瘍科病棟において病棟活動を行なっています。入院中の患者様やご家族の方を対象に患者様が使用されているお薬の効き目や副作用の説明を行い、薬の重複投与や相互作用及び副作用のチェックを行ないます。

今回は、血液腫瘍科で行なっている病棟活動についてご紹介します。

- 1. 指導日時**
月曜から金曜の午後1時～午後5時30分
- 2. 活動内容**

●**服薬指導**
初めて訪問する際は、薬や食品のアレルギー歴や副作用歴、入院前から飲まれている薬や健康食品の有無、服薬に関する問題点などについてお伺いします。そして、患者様向けの印刷物「化学療法を受けられる方とご家族の方へ」を用いて化学療法や起こりやすい副作用についてお話します。そして実際に治療が始まりお薬が使われると、改めてそれぞれのお薬に特徴的な作用、副作用等をお話します。

また入院中には重大な副作用が起きていないかの確認や、お薬の服薬状況をお伺いします。

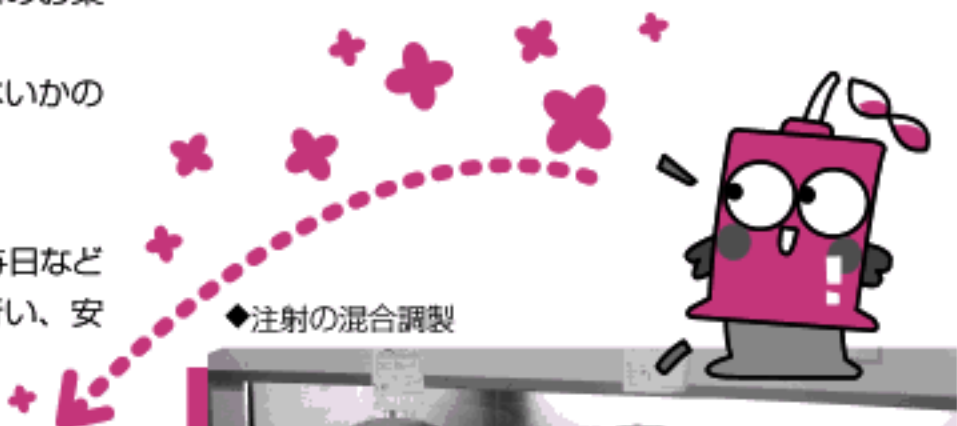
●**安全確認**
化学療法剤の使用にあたり、お薬の量や投与日などを医師、看護師、薬剤師で複数チェックを行い、安全性の確保に努めています。

●**注射の混合調製**
化学療法剤の混合調製を、薬剤部内で無菌的に行っています。それによって安全で適正な化学療法をサポートしています。

◆患者様向けパンフレット



●**カンファレンス参加**
毎週2回、血液腫瘍科のカンファレンス、回診に参加し医師や看護師と情報を共有し、それぞれの患者様への最適の薬物療法を考えています。



■飲み薬は、苦く飲みにくいものがあります。また、お薬が多種にわたることもあり、不安に思うことがあるかもしれません。しかしどれも大切なお薬です。そんなお薬についてわからないことや困ったことがあれば、お気軽に何でもご相談下さい。

血管造影室ってどんなところ？

検査・放射線部

関尾 直士

血管造影室はアンギオ室とも呼ばれ、血管造影検査を行うための部屋です。各科医師、診療放射線技師、看護師が協力してチーム医療を行っています。

血管造影検査はカテーテルと呼ばれる細い管を大腿の付け根の血管から挿入し、心臓や頭、腹部などの診断したい血管まで持って行きます。目的の血管にカテーテルから造影剤（血管を写し出すための薬品）を注入して、血管の走行や心臓の動きなどのX線写真を撮ることができます。

心臓カテーテル検査では心臓の部屋（右心室、左心室）の大きさや動き、血管（大動脈、大静脈など）の太さや血液の流れを調べることができます。また、心臓や各血管の中の圧力を測定することができるので、先天性の心疾患などの診断に大変役に立つ検査です。

頭部の血管（大脳動脈、椎骨動脈など）や腹部の血管（肝動脈、腎動脈など）も、カテーテル検査によって写し出すことができ、多くの病気の診断に用いられています。



最近の血管造影検査では、診断だけではなく、X線透視画像を見ながらの治療も行っています。この治療をインターベンションラジオロジー（IVR）といいます。

心臓血管では、狭くなった血管や弁を風船（バルーン）や金属（ステント）で拡げて、血液の流れを良くしたり、異常血管や遺残血管に金属（コイル）を挿入して異常な血液の流れを止めてしまう治療を行っています。

当院の血管造影室で行われた検査数は、平成15年度は392件（内IVRIは134件）、平成16年度は370件（内IVRIは89件）でした。

血管造影室に関するご質問がありましたら、診療放射線技師におたずね下さい。

学童主体病棟

学童主体病棟には、眼科・整形外科・形成外科・一般外科など手術目的の患者様と腎臓内科・脳神経内科・アレルギー内科などの患者様が入院されています。

年齢も幼児期から思春期と幅広い年齢層の患者様が入院されています。年齢や性別など個々の成長発達に応じた関わりや、環境の整備・ケアの提供ができるよう努めています。

検査や手術など苦痛を伴う入院生活を少しでも快適に送っていただけるよう、規則正しい生活を送ると共に、その中に季節の飾り付けを作成するなど、ボランティアの方の協力を得て遊びを交えたりしています。また学習の習慣も失うことのないよう学習時間を設けるなど、意図的な関わりを心がけています。

看護師は時として母となり、姉・兄となり、友達となりそれぞれの役割を果たせるようがんばっています。入院しているお子様たちは病室やプレイルームで、それぞれの年齢に応じ、共に遊び、励まし、また年長の児は幼少の児に優しく関わってくれるなど、学童期ならではのほほえましい交流が見られます。



Memorandum
From 検査部門からのお知らせ
Radiology

About 看護部だよ
nursing care



基本理念

周産期医療および小児医療専門施設として、母と子どもの総合的、高度専門的な医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1.子どもの権利を重視した医療の実践。
- 2.安心と信頼の医療の遂行。
- 3.専門的な高度医療の推進。
- 4.地域の医療・保健・福祉機関との連携。
- 5.親と子の健康啓発活動への貢献。
- 6.子どもへの愛とまことに満ちた医療人育成。

患者権利宣言

- 1.あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
 - 2.あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
 - 3.あなたとご家族は、医療について同意や拒否の権利があります。
 - 4.あなたとご家族のプライバシーは守られます。
- ◆みなさまと私たち職員がお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。
- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
 - 病院のきまりや約束ごとをお守りください。

「げんきカエル」で取り上げてほしいテーマがありましたら、食堂前廊下の掲示板にあるテーマ応募箱へぜひお寄せください。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。今号の編集を担当致しました村田です。まだまだ寒さも続きますが、皆様お風邪を召しませぬよう、十分お気をつけ下さいね。今回はインフルエンザの特集もありますので是非ご参考に…。他記事もイベント、病棟、各業務紹介等充実していると思いますが、もし取り上げてほしいテーマがありましたら、引き続き募集しておりますので食堂前廊下の掲示板に

あるテーマ募集箱までお寄せください。それでは、次号もお楽しみに!!

編集委員長：大橋正伸（診療部）、編集渉外担当：行 祥子（指導相談・地域医療連携部）

編集担当：尻 真貴子（看護部）春名真巳子（看護部）、正井秀幸（検査・放射線部）、村田和歌子（薬剤部）

本誌に関するご感想、ご希望、ご質問はこちらまで。

兵庫県立こども病院

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
TEL078-732-6961 FAX078-735-0910

URL:<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>

E-MAIL:info_kch@hp.pref.hyogo.jp